

鈴木商店調査書「株式会社大里製粉所」(原書 P57~61)

門司市外大黒町(原文ママ。正しくは“大里町”)

設立 明治四十四年十月

目的 製粉及製麵業

資本金 六拾萬円 払込済

投資額 八拾萬円内外

重役の氏名左の如し

専務取締役 谷 治之助 取締役 柳田富士松

取締役 宮本政次郎 同 森 衆郎

監査役 西岡貞太郎 監査役 小松楠彌

会社の沿革 現況

同社は明治三十五年頃英領香港にて英国人が製粉業を經營し居りしも、同地方の空気は湿気多きを以て製品優良ならず、遂に失敗に終りしを鈴木商店にて約拾余萬円にて買収し、現大里町に工場を設け、機械設備一切を移転し同四十四年、資本六拾萬円の株式会社に組織を変更し、益々発展に務め来りしも、本邦製粉界は米国品と競争の爲め絶へて不振の状態にありしが、欧州戦乱突発以来は米国は東洋を顧みるの違なきに至り、且つ露国及英仏伊等の注文相当輻輳し来りし結果、空前の活躍を呈し、殊に支那方面の需要激増は益々市価の暴騰を来し、現今斯界は殆んど投機化し来れり。

同所も大勢に伴れ好成绩を示し来りしが、偶々大正四年四月、階下電気室より火を失し、工場、倉庫全部烏有に帰し火災保険金にて補填せるも、尚損害約拾貳萬余円に達せしが、營業初年度よりは繰越利益金を以て補填し、直に復旧工事に着手し、前五層樓工場を六層樓となし、機械は最新式英米折衷式二十二台及付屬器機を据付け、五年六月竣成を告げ、七月より操業し一昼夜壹千五百パーレル、即ち六千袋の生産を有せり。

尚、本年末迄に設備拡張の計画にて完成の上は生産力倍加し、參千パーレル、壹萬貳千袋に達する計算なり。大正五年五月より同六年四月迄一ヶ年の營業成績は純益拾七萬円余を計上し、諸積立金、繰越金を加除し、年二割の配当を為せり。

即ち、決算左の如し

(単位：円)

資 産 之 部		負 債 之 部	
土地建物機械	704,357.36	株金	600,000.00
什器及備品	11,366.69	支払手形	1,195,584.64
原料及製品	1,229,776.20	社員積立金	1,065.15
貯蔵工場用品	119,140.55	保証金	300.00
受取手形	6,400.00	未払金	10,491.05
未収入金	545.69	預り金	84,003.89
銀行預金	30,851.03	買掛及売掛金	13,857.54
現金在高	1,558.47	仮勘定	998.65
		前期繰越金	24,375.98
		当期純益金	173,319.09
合計	2,203,995.99	合計	2,203,995.99

利

益金処分案

金 拾七万三千三百拾九円〇九銭 当期純益金

金 貳万四千三百七拾五円九拾八銭 前期繰越金

合計 金 拾九萬七千六百九拾五円〇七銭也

内

一. 金 貳萬円也 法定積立金

一. 金 貳萬円也 別途積立金

一. 金 拾貳萬円也 配当金（年二割）

金 參萬七千六百九拾五円〇七銭 後期繰越金

備考

決算面、純益拾七萬余円なるも、貳拾五萬円は建物機械償却費として損失に計上し居るを以て、実際の純益は四拾貳萬円に達せるものなり。

以て、其好成績なりしを窺知し得べし。